

平成9年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成9年5月20日

高知県病害虫防除所

本県での初発生を確認!

- キクモンサビダニ -

病害虫名 キクモンサビダニ (Paraphytoptus kikus Chinone)



1. 特殊報の内容 本県での初発生を確認
2. 初発生の確認された時期 平成9年4月7日
3. 発生場所 香美郡土佐山田町、香北町
4. 発生作物 キク(露地栽培)
5. 発生確認の経緯と発生状況

4月7日に土佐山田町のキク栽培農家から、葉に多数の斑紋が見られる株の診断依頼があった。実体顕微鏡で検鏡したところ、生長点付近にダニが見られ、被害の状態、ダニの形態などからキクモンサビダニであると同定した。また、4月21日に香美農業改良普及センターから診断依頼を受けた香北町のキクでも本種の発生が認められた。

なお、四国では愛媛県(昭和57年)と香川県(昭和58年)で発生が確認されている。

6. 形態・生態

雌成虫は、体長0.2mm前後のうじ虫状で淡黄色を呈する。脚は体の前縁に2対ある。

卵は球形で成虫の1/5程度、半透明～乳白色を呈する。

寄主植物はキク、コハマギク、ハマギク、チュウゴクノギク、ピオレギク、イソ

ギク、シオギクなどのキク科Chrysanthemum属の植物である。キクでの主な生息部位は、未展開葉から展開葉に移行する葉位の葉の裏側で、頂芽や下方の展開葉での寄生は少ない。越冬は冬至芽の中で成虫で行われるが、卵や幼虫の越冬は不明である。

7. 被害

生長部の若葉及び茎を加害して、紋々症状又はさび状症状となる。紋々症状は、展開してくる葉に直径数cm、黄色で明瞭又は不明瞭な輪紋斑を生ずる。さび症状は、斑紋は生じないが、加害部の葉や茎の表面が褐色となる。

8. 発生条件

前年の被害株から挿し苗を取ると、ダニの寄生した株を養成することになるため被害が増大する。被害茎には数10頭～200頭近くのダニが寄生していて、育苗時や本ぽで周囲に飛散、移動し発生が拡大する。野外では、冬には少ないが3月始め頃から7月にかけて増加する。8月には高温のために一時増殖が抑制されるが、秋には再び増加する。

9. 防除対策

- 1) 発病株から挿し穂を取らない。
- 2) 本種に対しての登録農薬はないが、ハダニ類との同時防除が可能なので、挿し床及び本ぽ初期に、県の病害虫防除指針(キク:ハダニの項参照)に基づき薬剤散布を行う。